

会議の概要

平成29年度 第4回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼 ○ 大玉中学校学校運営協議会

日 時：平成29年9月8日（金）16:40～18:10

場 所：大玉中学校 被服室

進 行：大玉中学校教頭

1 開会のことば おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 後藤みづほ

2 教育長あいさつ 大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎

- ・今日はオープンスクール。準備して下さった中学校には御礼申し上げます。
- ・全国コミュニティ・スクール研究大会について
人口が40万人の岐阜市では全ての学校でコミュニティ・スクールを導入している。各学校で取り組んでいる様々な事例の発表があったが、大玉村の取り組みにも共通するものが多くあった。内容について後ほど担当から詳しく報告する。
- ・今回の全国大会で印象的だったことについて
活動を通して集団的肯力感が育つという話を伺った。集団が個人を高める役割を果たすというもので、コミュニティ・スクールはそういったことに大きく寄与しているという話であった。
- ・明日の土曜日、村の防災訓練がある。地域学校協働本部の取り組みの一環として中学生に声をかけたところ、数名の生徒が参加してくれることになった。子どもが地域の中で活躍するきっかけとなればと思う。
- ・福島県では今年度から「がんばる学校応援プラン」を新たに重点施策に加えた。その施策の一つに「地域とともにある学校」を掲げている。なぜ地域と学校の連携が大事なのかというと、子どもたちの連続した学びを支えるには地域・学校・家庭が連携しなければならないということである。大玉で取り組んでいるコミュニティ・スクールはまさにこのことである。
- ・本日は大玉中学校に特化しての委員会になる。どうぞよろしくお願いします。

3 会長あいさつ おおたま学園コミュニティ・スクール委員会会長 伊藤 和弥

- ・本日は午後の授業参観もあり、委員の皆様お疲れ様です。今日の協議会では中学校の課題に対してプロの先生方のご意見だけでなく、我々素人の視点で考えるとまた違ったおもしろい内容が出てくるものと思う。どうぞよろしく願いいたします。

4 委員自己紹介（オープンスクールの感想を含めて）

（教育長退室）

5 協議

進行 大玉中学校教頭 佐藤裕子

（1）平成 29 年度の学校運営について（大玉中学校長）

- ・校章の由来について。
- ・目指す学校像に基づいた中学校の取り組みを紹介
「おおたまプライド」をキーワードにして生徒が誇りをもてる学校という意味でも重要視している。学校、学年便りでの生徒の活躍をできるだけ紹介している。
- ・あいさつ日本一運動について
学校だけでなく、地域の団体にもご協力をいただいて推進している。小学校、中学校の生徒がお互いに来校しあい交流を深めながらあいさつ運動を行っている。
- ・保護者や地域から応援される学校をめざし、さまざまな学習支援、キャリア教育の充実、PTA 関係や関係機関と連携した教育活動について
- ・学び続ける教師がいる学校について
本校では研究主題「思考力を育む授業の創造」、副主題「論理的思考を促す指導過程の工夫」に基づいて指導力の向上に努めている。校外研修にも積極的に参加することを促している。

（2）グループ協議「本校の教育活動について」（大玉中教頭）

大玉中学校 経営・運営ビジョン 平成 29 年度重点事項により、項目ごとのグループ協議の進め方について説明を行った。

○ 各グループの協議内容報告

≪授業の充実と学力の向上≫

1 班 分かる授業の創造

- ・子どもたちの表現力を高める授業の創造
- ・一人一人の実態に寄り添った授業
- ・タブレット等 ICT の活用、拡充、また教員の養成なども必要
- ・日頃からあいさつなど、声を出すことを大切にしていけることが重要
- ・自己表現させる工夫。授業中の発問に対して子どもたちの発言が間違っているも取り上げていくと子どもたちが発言しやすくなるのではないか。

2 班 家庭学習の習慣化（家庭との連携）

- ・家庭での課題として、生活習慣の徹底、コミュニケーション不足などがあげられた。
- ・対策として学校での様子を良いことも悪いことも含めきちんと伝えてもらって

いいのではないか。

- ・幼稚園、小学校、中学校の連携がますます必要になる。
- ・学力向上に関して、保護者との意識の共有も必要。

《人間性・社会性の育成》

3 班 いじめ・不登校問題

- ・不登校について、不登校の生徒が若干多い傾向があるが、地域にはあまり知られていない現状。プライバシーに関わることなので地域で共有するのは難しい問題ではある。
- ・いじめについて、SNS のトラブルやちょっとしたさかいからいじめに発展するケースが多いようだ。いずれにしても初期段階での言葉による解決ができないためにいじめに発展。
- ・行政区ごとに親も一緒に活動できる行事等があれば、解決策につながるのではないか。
- ・情報の共有も必要。ただ、個人情報のところではなく、数値的なものとか、どのようなケースがあるのかなどある程度の部分を共有し、理解し合う事が大切。

4 班 情報モラル（SNS 関係）

- ・課題は見えるが解決策としてはどうしていいかわからないというのが正直なところである。
- ・携帯、スマホ所有率が年々上がっている。中学生では4割、小学生でも多数みられる。保護者としては緊急時の連絡手段として買い与えていることが多いが、実際子どもたちの利用目的は全然違うものとなっている。
- ・学習や他の生活への影響も懸念され、また、見えない部分で何が起きているか、教師も把握できない。
- ・機会を見つけて、ケースごとに発生するトラブル等を具体的に保護者にもお伝えしていくことが必要。

《心身の健康増進と安全指導の充実》

5 班 体力の向上

- ・食育に関して。お菓子は食べるがしっかりと食事をする習慣がついていない子どもが多いようなので、「ノーお菓子デー」を作る。
- ・朝ごはんを食べないで登校する子どもには「早弁タイム」「子ども食堂」などはどうか。
- ・親への意識付けのためにスクールソーシャルワーカーの活用。
- ・子どもが自分でお弁当を作る日をつくったらどうか。
- ・体力面について。車で送迎され通学する子どもが多い。期間限定で「自転車通学大作戦」。

- ・村内各地区に運動スペースを作ってほしい。

6 班 安全教育（自転車事故防止）

- ・一番はヘルメットの着用の問題。登校時、学校近くになると被る生徒もいる。場合によっては罰則をつくるなどした対策も必要なのではないか。
- ・小学生の乗り方の問題、また幼稚園児にも指導が必要なのではないか。
- ・大人の車の運転のマナーの問題
- ・学校から保護者に対する働きかけや、村教育委員会からの村民に対しての働きかけが必要
- ・幼小中合同で安全な自転車の乗り方の指導教室
- ・村内の道路が歩行者や自転車にとって安全ではない。道路が狭かったり、見通しの悪い場所があるので村に働きかけていく必要がある。
- ・命を守るのはまずは自分で守るしかないという意識付けを行う。繰り返し、いろいろな場面で学校、村をあげて指導していく必要がある。

（3）講評（伊藤和弥会長）

- ・貴重なご意見、おもしろいご意見が出て、有意義な会になったと思う。委員の皆さんは学校評価委員も兼ねているので、これから学校評価をする上でもいい機会になったかと思う。

（4）御礼の言葉（大玉中学校長）

- ・グループでの協議の中身に関しては、なかなか意見の出しにくいテーマもあったようだが、対応策まで考えていただいたグループもあった。是非今後の学校経営に反映させていきたいと思っている。本日はありがとうございました。

（5）事務局から（佐久間指導主事）

○「2017 全国コミュニティ・スクール研究大会 in 岐阜」についての報告

- ・子どもを育てるうえで一番大切なものは親の接し方であるが、それと同じくらい大事なものは地域の教育力である。大玉村では「地域の教育者」としての自覚を持って活動している方々が多く、一人一人の意識の高まりが地域の教育力の向上に大きく貢献していることを実感した。

福島県ではコミュニティ・スクールを導入している自治体の数がまだまだ少ないのが現状だが、これから導入したいという自治体も多い。今後の大玉村のコミュニティ・スクールについて、これまでの成果を踏まえるとともに、実態に合ったコミュニティ・スクールを推進していきたいという思いをもった研究大会だった。



学校運営協議会に先立ち開催されたオープンスクールの様子。CS 委員も先生方に交じって授業を参観しました。



授業参観後に行われた分科会の様子。先生方の授業研究会ですが、CS 委員も積極的に参加しました。



学校運営協議会の様子。中学校の教職員も校長先生以外に 12 名の先生方が参加して下さいました。先生方と地域住民である CS 委員や教育委員会職員が、中学校の課題について熱心に意見交換しました。